

吉川元偉 前国連大使 特別対談第1回【“国連で働く”とは】

2017.08.26



国連日本政府代表部特命全権大使や駐スペイン大使、経済協力開発機構（OECD）日本政府代表部大使などを歴任し、42年間にわたり外交の最前線で活躍され、本学の客員教授でもある吉川元偉（よしかわ もとひで）先生とグローバル・コミュニケーション研究所の久保谷富美男先生との対談の様子を3回に分けてお届けします。

〈久保谷 先生〉

吉川先生は1974年に外務省へ入省後、スペイン・タイ等の在外公館をはじめ、中南米局・中東アフリカ局、パリに本部を置くOECDやニューヨークの国連本部など、世界の政治・経済の中核である国際機関にも関わり幅広く活躍されてきました。その42年間に及ぶ外交官としての歩みについて、少しお話を伺いたいと思います。吉川先生はどういったきっかけで、外交官への道を志したのでしょうか。



グローバル・コミュニケーション研究所 久保谷富美男 先生

〈吉川 先生〉

私は高校時代に、国際的なボランティア団体AFSの留学プログラムでアメリカの高校に留学しました。日本を出て異文化にふれ、世界中から集まった留学生たちと出会ったこの経験が大きな転機となり、日本と各国との接点になる仕事に就きたいという強い想いを抱くようになったのです。しかしそこで考えたのは金融や商社などビジネスの分野ではなく、外交やジャーナリズムといった分野だったのですが、大学を卒業後、その念願が叶い外務省に入りました。入省後は専門語学としてスペイン語を選び、外務省の留学制度でスペインへの留学も経験しました。それから30年後には、在スペイン大使として再びスペインに戻ることができました。



吉川元偉(よしかわ もとひで)氏 前国際連合日本政府代表部 特命全権大使・常駐代表

〈久保谷 先生〉

その外交官活動の中では、長く国際連合においても活躍されていますね。そこで今回のテーマの一つでもある「国連の仕事」について伺っていきたいとおもいます。まず一般的に「国連」の名は誰もが知っている、人権や平和などのジャンルを横断する諸問題解決に取り組んでいる国連ではどのような働き方があるのか、分からない人が多いと思います。実際に世界をフィールドに国連で働くとなると、どのような働き方があるのでしょうか。

〈吉川 先生〉

国連は前身の国際連盟が第二次世界大戦を防げなかったという反省から1945年に発足した国際組織であり、現在193カ国が加盟しています。“国連で働く”とは一般的には、「国連職員」になることです。国連職員は、加盟国の出身者であることが必須条件です。皆さんもご存じの元国連事務次長の明石康さんは、1956年に日本が80カ国目の国連加盟国となった翌年に、日本人の国連職員として初めて採用された一人です。国連職員は、国連憲章の定めにより、自分の出身国のみならず、特定の国の利益のために働くことはできません。国連職員の仕事は国連憲章に書いてあるとおり世界の「平和・安全・人権」のために中立性をもって働くことです。

一方で、私は日本の外務省直属の国連日本政府代表部全権大使として、ニューヨークの国連日本政府代表部に勤務しました。国連職員と私との大きな違いは、私は日本国の利益代表者として国連において働いていたということです。皆さんが普段、テレビニュースなどで見る国連総会や安保理事会においても、JAPANと明記されたプレートの前で、私は日本の代表として発言してきたわけですが。私は外交官人生の中で通算10年、国連の業務に携わってきました。国連はその名の通り国を超え、さらにジャンルを超えて、マルチな分野で多岐にわたる活躍の場がある機関です。そこでの経験から幅広い知見、人脈を得ることができ、私にとっても国連での10年間は大きな意義があったと考えています。



〈久保谷 先生〉

それでは、吉川先生がご経験された国連日本政府代表部特命全権大使（以下国連大使）としての業務には、具体的にはどのようなものがあるのでしょうか？

〈吉川 先生〉

4つの主要な業務があります。1番目が、国連の会議において日本代表として発言し、交渉を通じて日本の考え方を決議案などに反映させるという仕事です。一日中、会議場に詰めていることもあります。皆さんもニュース等で度々目にしたことがあることでしょうか。実はこの裏では、いわゆるロビー活動といわれる根回しがあります。これが国連大使の2番目の仕事です。一つの決議案を日本に有利な条件で通すために、私たちは水面下で時間をかけて加盟各国に個別にアプローチをかけています。3番目に重要な活動は、日本にとって少しでも有利な条件で国連での活動を進めるために、各種選挙に出て勝つことです。一番重要な選挙は、安保理事会の非常任理事国になるための選挙で、日本は2015年に行われた選挙に当選しましたが、私の国連大使在任中の最も力を入れた選挙でした。

そして4番目が、国連事務局で働く日本人職員を一人でも増やし、彼らが国連組織の中で高いポストに就けるように働きかけることです。優れた日本人候補者の実績や能力を国連の採用担当者に説明し、しつこく働きかけます。なぜ国連大使である私がこのようなことをするのか。さきほど私がいった国連職員の公平性と矛盾しているようにも聞こえます。もちろん明石さんのように、優れた能力があって採用され、それが正当に評価されて昇進していく日本人は数多くいます。本来であれば国連の人材採用には各国の国連大使も介入する余地はないのだけれども、実際には政治力で送り込まれる人がいるなど、国連職員の幹部人事は政治介入を許す現実があるからです。

国連職員として働くということは建前上、自分の出身国の短期的な利益とは合致しないかもしれませんが。しかし、日本人として国連で働き、そこで優れた成果を出すことで、それが自然と日本の評価を高め、日本の利益にもつながります。実際に国連の日本人職員は、さまざまな人の意見に公平に耳を傾け、一つひとつの仕事が丁寧で、偏らないよい裁きをするという評価を得ているのです。

■ 吉川元偉（よしかわもとひで）先生

1951年、奈良県生まれ。国際基督教大学教養学部社会学科を卒業後、1974年に外務省に入省。国際連合日本政府代表部特命全権大使・常駐代表、在スペイン日本国大使館特命全権大使、初代アフガニスタン・パキスタン支援担当大使、経済協力開発機構（OECD）日本政府代表部特命全権大使等を歴任。英、仏、西3カ国語を話す。

